

カムチャツカ地方概要



カムチャツカ火山群

平成27年3月
在ウラジオストク日本国総領事館

カムチャッカ地方概観.....	2
1 位置.....	2
2 沿革.....	2
3 気候.....	3
4 人口・住民.....	3
5 政治.....	3
6 軍事.....	4
7 経済・産業.....	4
8 治安.....	4
9 日本との関係.....	5

カムチャツカ地方概観

1 地理

(1) カムチャツカ地方（中心都市：ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市）は、ロシア極東地域の最東部（モスクワから 11,900km）、千島列島とチュコト自治管区の間位置し、カムチャツカ半島およびそれに続く大陸部、コマンドル諸島、カラギンスキー島で構成される。総面積は 47 万 2,300 平方 km（日本の約 1.3 倍）。

(2) 同地方の大部分を占めるカムチャツカ半島は、長さ約 1,200 km、最大幅約 450 km、面積約 37 万平方 km に及ぶ広大な地域であり、未開発の自然が広がっている。半島北部は永久凍土に覆われている。半島は環太平洋火山帯に属し、最高峰クリュチェフスコイ火山（標高 4,750m）を始め火山（約 300 座、うち約 30 座が活火山）や温泉が多い。また、全長 700 km 以上に及ぶカムチャツカ川など、多くの河川や湖沼が存在する。オホーツク海、ベーリング海及び太平洋に囲まれ、水産資源も豊富である。

(3) 主な市町：ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市（地方政府所在地。地方の政治・経済・文化の中心）、エリゾヴォ市（地方第 2 の都市。ペトロパヴロフスク・カムチャツキー空港が所在）、ヴィリュチンスク市（太平洋艦隊原潜基地が所在。閉鎖行政区画）、ウスチ・カムチャツク町、パラナ町（旧コリヤーク自治管区行政所在地）

(4) 日本との時差は、ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市が 3 時間進んでいる。モスクワとの時差は、ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市が 9 時間（通年）進んでいる。

2 沿革

(1) ロシア人による極東探検は 17 世紀に始まったが、シベリアから太平洋に至るまでに長い時間を要し、1697 年に初めてアトラソフを隊長とする探検隊がカムチャツカ半島に到達した。

(2) 18 世紀に入ると、ピョートル大帝の命により 3 次にわたるカムチャツカ探検隊が組織されるなど探検・調査が活発化した。この時期には、ベーリング、クラシェニンニコフ、シパンベルグ等多くの探検家がカムチャツカを訪れ、ロシア極東地域のみならず、アジア、アメリカ、日本方面の調査を行った。1779 年には英国探検隊（「Discovery」号と「Resolution」号）がカムチャツカを訪れ、同隊長チャールズ・クラーク（ジェームス・クックの後継者）はこの地で没している。

(3) 1849 年、カムチャツカ州が設置され、その後一時沿海州の一部となったが、1909 年、ペトロパヴロフスク郡など 5 つの郡からなるカムチャツカ州として別個の行政単位となった。

(4) 1930 年 12 月、カムチャツカ州内北部にコリヤーク自治管区が設置された。（1993 年のロシア連邦新憲法施行により別個の連邦構成主体となる。）

(5) カムチャツカ州は豊富な水産資源を背景に漁業を主要産業として発展し、また、第二次世界大戦後はソ連太平洋艦隊の原潜基地が置かれるなど軍事的拠点として整備

された。ソ連時代は閉鎖区域であったが、1990年代に入り外国人旅行者に開放され、近年では豊かな自然を楽しめる観光地としても注目されている。

(6) 2007年7月1日、カムチャツカ州とコリヤーク自治管区が合併し、カムチャツカ地方が成立した。

3 気候

(1) カムチャツカ半島には、山脈や火山、地熱などの影響により20の気候区分が混在している。沿岸部の年間降水量は1,300mm、内陸部では年間500mmである。最も寒さが厳しい1月の平均気温は-15~-16℃程度だが、より冷たい空気が流れ込む山間部では-57~-50℃まで低下する。一方、西部、東部及び沿岸部では冬でも-27~-25℃以下になることはない。

(2) カムチャツカ半島の冬は長く、曇りがちで霧に覆われ、積雪量は1.2mに達することもある。春は4月末から6月初めまでと比較的短い。この時期の気温は5~15℃で、気温の変化が激しく、天気も変わりやすい。

4 人口・住民

(1) ソ連解体直前の1991年のカムチャツカ州の人口は47万2,000人であった。しかし、その後の市場経済への移行に伴う経済混乱や著しい生産の低下により、他の地域への移転による人口の社会減少が進み自然減少も加わった結果、1991年から1996年にかけては毎年平均1万2,400人のペースで減少した。1996年以降は減少率が鈍化している(2013年には685人減少)。

(2) 2014年末時点のカムチャツカ地方の人口は31万9,864人で、その8割が中心都市ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市及び第2の都市エリゾヴォ市等の都市部に集中している。カムチャツカ地方内にはロシア人を中心に、100を超える多様な民族が居住している。北方少数民族(カムチャダール、イテリメン、エヴェン、コリヤークなど)は人口の8.1%弱。

5 政治

(1) 2005年以降、連邦政府の支持の下、カムチャツカ州とコリヤーク自治管区の統合への動きが具体化し、同年10月23日の住民投票で統合が承認された(カムチャツカ州:投票率-56.44%,賛成-84.99%。コリヤーク自治管区:投票率-76.71%,賛成-89.04%)。

(2) 2007年7月1日、「カムチャツカ地方」が設置され、クジミツキー前カムチャツカ州副知事・自治問題局長(2007年5月より同州知事代行)が同地方知事に就任した。

(3) 2011年2月、それまでカムチャツカ地方主任連邦監督官を務めていたイリュエーヒン氏が同地方知事代行に任命され、同3月に知事に任命された。

(4) 2011年12月、カムチャツカ地方議会選挙(定数:28, 比例選出14, 選挙区選出14)が行われた。14か所の選挙区全てにおいて統一ロシア所属の候補者が当選し、比例制度での政党の獲得議席数及び得票率は統一ロシア:8(44.83%), 自由民主党:

3(19.77%), 共産党 : 2(17.67%), 公正ロシア : 1(10.77%)。

6 経済・産業

(1) カムチャツカ地方の 2014 年域内総生産は 1,462 億ルーブルで、2013 年に比べて約 110 億ルーブル増加。

(2) 主要産業は漁業・水産加工業。水揚げされた魚の大半は輸出に向けられており、2014 年 1-9 月の魚介類の輸出額は 4 億 4,044 万ドル (17 万 6,385 トン) で、2013 年同期比の 85.9% (72.2%) に留まった。主な輸出先は日本、韓国、中国、米国。

(3) 2014 年のカムチャツカ地方の貿易総額は 6 億 802 万ドルとなり、前年比で 14.4% 減少した。輸出は 5 億 2,182 万ドル、輸入は 8,620 万ドルと大幅な貿易黒字を記録している。2014 年の主な貿易相手国は、①韓国 : 総額 3 億 6,289 万ドル (輸出 : 3 億 3,132 万ドル、輸入 : 3,157 万ドル)、②中国 : 総額 2 億 1,279 万ドル (輸出 : 1 億 8,987 万ドル、輸入 : 2,292 万ドル)、③日本 : 総額 1 億 276 万ドル (輸出 : 9,048 万ドル、輸入 : 1,228 万ドル)、④米国 239 万ドル (輸出 : 57 万ドル、輸入 : 181 万ドル)。

(4) 課題は水産業以外の産業振興であり、今後発展が期待される分野としては観光業等がある。特に、現在極東発展省を中心に進められている先行発展領域の候補要件となっている「カムチャツカ」の枠組みで、エリゾヴォ空港及びペトロハヴロフスク＝カムチャツキー海洋商業港の近代化の他、観光・レクリエーションクラスター「パラトゥンカ」創設等が計画されている。

7 軍事

(1) 第二次世界大戦後、カムチャツカ半島はソ連・ロシアの国防上の重要地域として発展した。特に、アヴァチャ湾南岸のヴィリュチンスク市はロシア海軍の主要な原潜基地の一つである。

(2) 連邦政府はカムチャツカにおける海軍戦力の維持・発展を重視しており、潜水艦基地近代化や潜水艦乗員向け住宅建設等のインフラ整備が進められている。

8 治安

(1) 治安は、ロシアの他地域との比較において相対的に良好と言われている。要因としては、同地方が周辺を山々に囲まれた半島内に位置しており、人の出入りが航空機及び船舶によるしかないという地理的条件が挙げられる。治安機関もこの好条件を理解しており、同州への上陸時における身分チェックを厳格化して、外部からの犯罪要因が流入しないよう努めている。

(2) 2014 年の犯罪総件数は 4,978 件 (前年比 -125 件) であり、年々減少してきている (2007 年は 8,601 件)。

犯罪発生率 (人口 10 万人あたり) は 1,552 件でロシア連邦 83 構成主体中 36 位である。

罪種別では、殺人及び殺人未遂が 32 件 (前年比 -1 件) 強盗 124 件 (前年比 -39 件)

窃盗 1,905 件（前年比－129 件）麻薬の違法取引 581 件（前年比＋91 件）となっている。
（3）人の多く集まる場所への立ち寄り時や公共交通機関等を利用する際には、ひったくり、置き引き、スリ等の被害に遭わないように注意するほか、極東地域では飲酒者による粗暴事件が増加していることから、酒に酔った者同士の争いを目撃した場合には、好奇心などから不用意に近付くことは絶対に避け、速やかにその場から離れるべきである。

9 日本との関係

（1）歴史

（ア）江戸時代には、伝兵衛（ペテルブルクに送られロシア最初の日本語教師となる）、ゴンザ（ロシアで初の露和辞典を作成）、大黒屋光太夫（ペテルブルク訪問後に帰国を果たし、ロシア事情を日本に紹介）など多くの日本人漂流民がカムチャツカに足跡を残した。また、ゴロウニン事件の解決に尽力した高田屋嘉兵衛も一時この地に滞在している。

（イ）1875 年の樺太千島交換条約では、千島列島北端の占守（シュムシュ）島とカムチャツカ半島南端ロパトカ岬との間が日露両国の国境となった。

（ウ）20 世紀に入ると、サケ・マス・カニなど豊富な水産資源を有するカムチャツカ周辺海域は、日本の北洋漁業の舞台となった。

（エ）日本のポツダム宣言受諾後の 1945 年 8 月 18 日未明、ソ連軍はカムチャツカから占守島に武力侵攻を開始した。既に武装解除の準備を進めていた日本軍守備隊は約 370 人の戦死者を出しながらも果敢に防戦し、攻撃するソ連側がより多くの損害を被った後、23 日に停戦協定が結ばれた。

（オ）第二次世界大戦後、カムチャツカは長らく外国人立入制限地域とされていたが、1991 年に開放され、日本人観光客も増加しつつある。2001 年 8 月、カムチャツカ州は在ウラジオストク日本国総領事館の管轄区域となった。

（2）在留邦人

2014 年 10 月 1 日現在、カムチャツカ地方内の在留邦人は 3 名。

（3）要人往来（肩書は全て当時）

2003 年 6 月	新藤外務大臣政務官	カムチャツカ訪問（マシュコフツェフ知事との意見交換、非核化協力推進等）
2004 年 8 月	田中外務大臣政務官	カムチャツカ訪問（マシュコフツェフ知事との意見交換、非核化協力現場視察等）
2006 年 9 月	伊藤外務大臣政務官	カムチャツカ訪問（エルモレンコ第一副知事との意見交換、非核化協力現場視察等）

（4）非核化協力（退役原潜解体協力事業）

（ア）ロシア極東には解体を待つ退役潜水艦が多数係留されており、放射能汚染等重大な環境事故が発生する可能性があるほか、核物質不拡散の観点からも問題があることから、我が国政府は、日露非核化協力委員会（1993 年、二国間協定に基づき設立）を通

じてロシアに対する非核化協力を行ってきた（主な事業は完了し、一部事後評価の実施（2016年～2017年予定）を残すのみ）。

（イ）2005年11月、プーチン大統領訪日の際、ロシア退役原潜解体協力事業「希望の星」の枠内で、退役原潜5隻（4隻は沿海地方、1隻はカムチャツカに所在）の解体にかかる実施取決めが署名された。上記5隻のうち、カムチャツカ所在の1隻（チャーリー-I級）については、2008年1月に解体契約が締結されて作業が開始され、2010年3月の完了式典の実施をもって、本事業は完了した。

（5）防衛交流等

（ア）艦艇訪問

2000年9月、海上自衛隊護衛艦2隻がペトロパヴロフスク＝カムチャツキーを訪問し、第3回日露SAREX（搜索救難共同訓練）を実施した。また、山崎前自衛艦隊司令官（当時）及び勝山護衛艦隊司令官（当時）が同地を訪問し、ザハレンコ太平洋艦隊司令官（当時）と会談した。

（イ）潜水艇事故救難協力

2005年8月、カムチャツカ半島沖で発生したロシア太平洋艦隊小型潜水艇事故の際、ロシア政府からの要請を受け、海上自衛隊が艦艇4隻からなる救難部隊を同地に派遣した。救難活動は先着した英軍部隊が実施したが、日本の迅速な救難部隊派遣に対し、プーチン大統領（当時）から日本部隊指揮官に勲章が授与されたほか、イワノフ国防相（当時）、フョードロフ太平洋艦隊司令官（当時）などロシア側関係者より謝意が表明された。

（6）拿捕事件

2003年に日本漁船「第三開洋丸」、2004年に同「第63好恵丸」、同「第75漁安丸」、2005年に同「第28丸中丸」「第63甚宝丸」の拿捕事件が発生した。2003年の事例では、船員と船体が9ヶ月拘束されたように、解決までに長時間を要する事がある。

2006年10月、日本漁船「第53富丸」、「第5洋恵丸」、「玉龍丸」及び「第5大林丸」がロシア警備艇の臨検を受けた。このうち「玉龍丸」は同年12月まで、「第5洋恵丸」は2007年1月までペトロパヴロフスク・カムチャツキーに拘束された。「第53富丸」は裁判の結果船体没収が決定した。

2007年6月には、日本漁船「第88豊進丸」の拿捕事件が発生した。7月、日本政府は国際海洋法裁判所に提訴、結果担保金による解放を命じる判決が下され、8月、同船は解放された。

（7）文化・教育等

（ア）当館主催、カムチャツカ州行政政府の協力による文化行事を毎年のように開催しており、直近では、2011年～2014年の間に3回の日本文化デイズを開催し、映画上映の他、日本語歌謡大会、着物講習会、茶道教室、華道教室等の多種多様な行事を実施し、それぞれに多数の参加者を得ている。

（イ）日本語教育は、カムチャツカ国立総合大学で行われており、約20名の学生が日本語を学習している（2014年8月現在）。毎年、同大学が中心となり日本語弁論大会を

開催しており、上位入賞者は極東東シベリア弁論大会に出場する等意欲的に学習に励んでいる。

(8) 自治体交流

現在、カムチャツカ地方と姉妹・友好関係にある日本の地方自治体はないが、日本の地方自治体との姉妹提携関係樹立に強い意向を示している。また、1998年、ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市と北海道の釧路市との間で「港街友好都市提携協定」が調印されており、今後の交流発展に期待がもたれている。

(9) 研究機関

特定非営利活動法人「カムチャツカ研究会」(1993年発足、会長は竹内良夫氏)が環境、社会、経済、文化教育分野等、様々な分野における研究、調査、協力、交流を行っている。

(了)